

♪ 2017年度 **poco a poco** ♪

Nr. 7 2017年7月13日(木) 文責: プファイル・辰巳

ゴール間近!!

1学期の終業式が近づいてきました。かっくに例えるなら、最終コーナーを回った当たりでしょうか。4月に新学年が始まって早3か月、みんなよくがんばりましたね。たった数か月の間に子どもたちが見せてくれる成長ぶりには、目を見張るものがあります。

1学期の授業は残りわずかですが、最後まで気を引き締めて、1学期のまとめをしっかりと終わらせましょう!



ミニコンサート、お疲れさまでした!



先日はお暑い中、ミニコンサート会場に足をお運びくださりありがとうございました。

ピアノ・ヴァイオリン・フルートなどの独奏楽器が活躍する中、微笑ましいお友だちとのアンサンブルも心惹かれるものがありました。

2学期は長丁場ですから、ミニコンサートもかなり先の話になりますが、音楽は毎日の練習の積み重ねが大事ですから、夏休み中も、そして2学期が始まって、少しずつ、少しずつ、楽器や歌の練習を続けてくださいね。2学期のミニコンサートも、たくさんのおいしいアンサンブルが聞けるといいなと期待しています。

保護者のみなさまには、当日の温かい声援だけではなく、普段の生活やミニコンサートの準備段階から、いろいろ支えていただいていることが、たくさんあることと思います。この場をお借りしまして、感謝申し上げます。これからも、子どもたちの音楽活動に是非、ご支援をお願いします!!

音楽こぼれ話 <作曲家のこの一曲 ④ ヨーゼフ・ハイドン 交響曲 第45番「告別」Hob. I-45>

ヨーゼフ・ハイドンはオーストリアを代表する作曲家です。世代としては、モーツァルトよりも20年ほど先に生まれており、古典派の基礎を築いた作曲家の一人です。ベートーヴェンの先生でもありました。

1曲、1曲はそんなに長くはありませんが、交響曲を100曲以上も作曲したので、「交響曲の父」と呼ばれることもあります。

また、現在ドイツ国歌として歌われているメロディは、ハイドンの弦楽四重奏曲「皇帝」第2楽章の旋律です。ドイツ人ではなく、オーストリア人のハイドン作曲のドイツ国歌というのも少し不思議な感じですね。

さて、そのハイドン作曲の100曲以上ある交響曲ですが、いくつかの作品に副題が付いています。「校長先生」「火事」「熊」「めんどり」「うかつ者」「驚愕」「時計」・・・題名を読んでいるだけで楽しくなってきますね。題名だけではなく、曲そのものにも楽しい工夫が凝らされていて、例えば「驚愕(びっくり交響曲)」は、その名の通り、静かなメロディの中で突然ティンパニーの大きな音がドーンと鳴り響いて、聴いている人をびっくりさせます。ハイドンさんは、いたずら好きのおちゃめな性格だったのでしょか?

冒頭の交響曲第45番「告別」も、初めてコンサートホールで聴いたとき、びっくりさせられました。最終楽章の後半で、一人、また一人とオーケストラのメンバーたちが舞台から出ていってしまうのです。最後は指揮者まで行ってしまっ、舞台にはコンサートマスターともう一人のヴァイオリニストの二人だけ。私が聴いたときは、曲が終わったときには照明まで消えて真っ暗になってしまいました。まさに「告別~さようなら」です。CDで聴くよりも、ライブか画像付きで見ると、面白さが伝わってきます。

この曲は、ハイドンが当時使っていたエステルハーゼ侯がオーケストラ団員たちを夏の離宮に呼び寄せ、なかなか家に帰らせてくれなかったことに抵抗する意を込めて、作曲されたと言われています。「もうおしまい。さようならだよ。」という気持ちは伝わったらしく、この曲の初演の後、オーケストラ団員たちは家族の待つ自宅に帰ることができたということです。

ちなみに、作品番号のHob.は、オランダ人音楽学者ホーボーケンの名前の省略形で、ハイドンの作品をジャンルごとに分類して番号を付けた人だそうです。Iは交響曲を表しています。



(1732-1809)